

取扱説明書(追補版)

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

目 次

本書をお読みになる前に	1
第2章 周辺機器の設置／設定／増設	3
1 周辺機器を取り付ける前に	4
2 本体カバー	6
3 メモリ	8
4 拡張カード	15
5 ハードディスク	19
第3章 お手入れ	27
1 ワークステーション本体のお手入れ	28
2 周辺機器のお手入れ	35

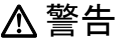
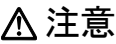
本書をお読みになる前に

本書の表記




本書の内容は、2010 年 1 月現在のものです。お問い合わせ先や URL などに変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時にカスタムメイドで仕様を変更した場合は、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種や OS 別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
CELSIUS W380	本ワークステーション／ワークステーション本体	
Windows [®] 7 Professional 日本語 32 ビット版	Windows 7	Windows
Windows [®] XP Professional	Windows XP	

ご使用になるうえでの注意事項

■ アース線を外す場合の注意事項

「平行 2 極接地用口出線付変換プラグ（2P 変換プラグ）」のアース線を外す場合は、必ず「平行 2 極接地用口出線付変換プラグ（2P 変換プラグ）」をコンセントから取り外したうえで、作業を行ってください。

■ 内蔵リチウム電池に関する注意事項

内蔵リチウム電池は交換しないでください。

異なる種類の電池に交換した場合、電池が破裂する危険があります。

電池が劣化したなど、交換が必要になった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご相談ください。

■ 拡張スロットをお使いになる場合の注意事項

拡張スロットから供給される電源量の合計は、「PCI スロット数× 15W」です。全スロットの合計電源供給量が、カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）またはグラフィックスカード追加を選択した場合は 15W 以下、その他の場合は 30W 以下になるように、ご使用ください。なお、PCI Express x16 スロットはグラフィックスカード専用スロットです。

また、カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合は、PCI Express x1 スロットに搭載されます。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

第 1 章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	4
2 本体カバー	6
3 メモリ	8
4 拡張カード	15
5 ハードディスク	19

1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明しています。

⚠ 警告



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



- 周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります
ご購入の前に富士通製品情報ページ内にある CELSIUS の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品以外を取り付けた場合、正常に動かなかったり、本ワークステーションが故障したりしても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
弊社純正品以外の動作については、サポートしておりません。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないうちがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切ってください
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーション本体の電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。

- **あらかじめ搭載されている周辺機器について**

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置やケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合を除く）。

- **電源ユニットは分解しないでください**

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です。

詳しくは、「CELSIUS マニュアル」にある『製品ガイド』の「各部名称」－「ワークステーション本体内部」をご覧ください。

- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください**

傷付けたり、加工したりしないでください。

- **柔らかい布の上などで作業してください**

固いものの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。

- **静電気に注意してください**

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

- **プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください**

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。

- **周辺機器の電源について**

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI 対応の OS で周辺機器をお使いになる場合、周辺機器が ACPI に対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPI に対応していない周辺機器を使うと、本ワークステーションおよび周辺機器が正常に動作しないおそれがあります。

- **ドライバーを用意してください**

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体カバー

周辺機器を取り付けるときは、本体カバー（サイドカバー）を取り外し、3.5 インチ HDD ケージを開けて、内部が見える状態にします。

⚠ 警告



- 本体カバーの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 本体カバーの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体カバーの取り外し方／3.5 インチ HDD ケージの開け方

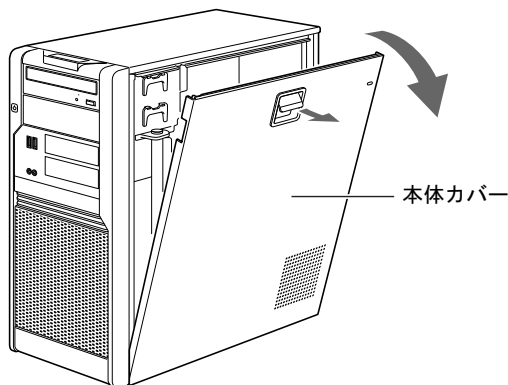
本体カバーは、ワークステーション本体が滑らないような場所で取り外してください。

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

👉 重要

- ▶ 必ず電源プラグをコンセントから抜くか、ワークステーション本体背面のメインスイッチを「○」側に切り替えてください。電源を切っただけでは、メモリは通電していることがあります。
メインスイッチの位置については、「CELSIUS マニュアル」にある、『製品ガイド』の「各部名称」をご覧ください。

- 2 本体カバーのレバーを引いて、本体カバーを取り外します。



🔍 POINT

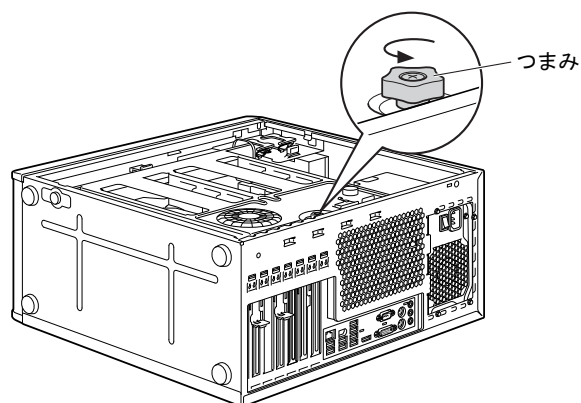
- ▶ 本体カバーを取り付ける場合は、取り外す手順と逆の手順で行ってください。

3 ワークステーション本体を横置きにします。

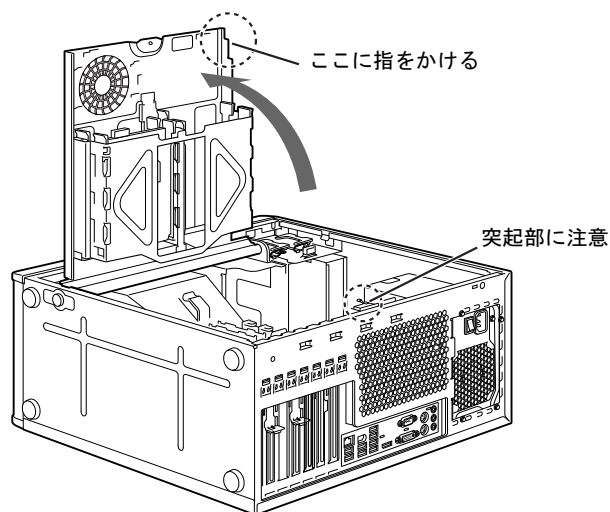
4 緑色のつまみ（1ヶ所）を左に回してゆるめます。

 **POINT**

▶ つまみを取り外す必要はありません。



5 3.5 インチ HDD ケージを開きます。

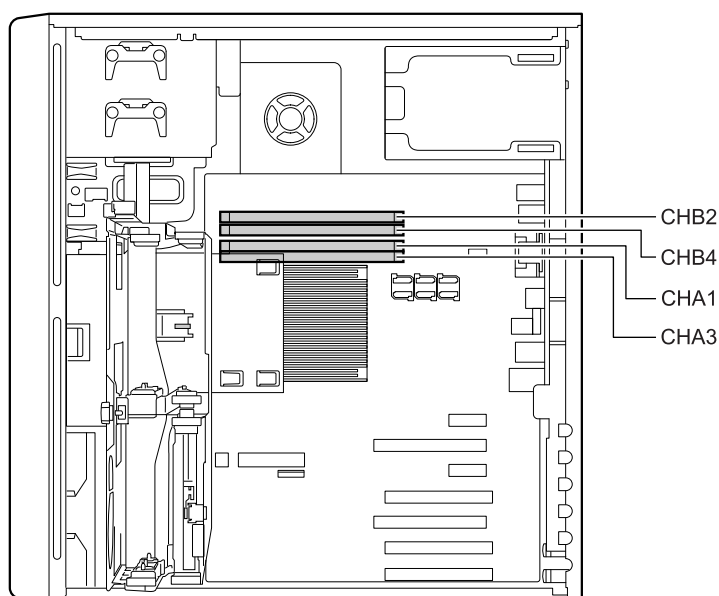


3 メモリ

ワークステーション本体に取り付けられるメモリ容量を増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、本ワークステーションの処理能力があがります。

メモリの取り付け場所

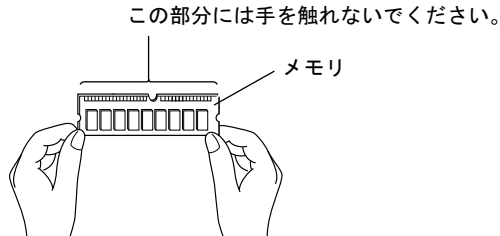
メモリはワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。



取り扱い上の注意

重要

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。



- 取り外したネジなどをワークステーション本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリが補助金具などに触れないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品をお使いください。使用できるメモリについて、詳しくは富士通製品情報ページ内にある CELSIUS の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションに取り付けられるメモリの最大容量は、次のとおりです。

- Windows 7 Professional（32 ビット版）：最大 4GB
- Windows XP Professional：最大 4GB

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。

CHB 2	CHB 4	CHA 1	CHA 3	総容量	Windows 7 Professional（32 ビット版） Windows XP Professional
1GB	—	—	—	1GB（標準）	○
1GB	—	1GB	—	2GB	○
2GB	—	2GB	—	4GB	○注

注：OS が使用可能な領域は約 3GB になります。

重要

- ▶ この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けしないでください。

メモリを取り付ける

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。
- ▶ メモリを増設した後は、仮想メモリを設定する必要があります。設定方法は、「CELSIUS マニュアル」にある『製品ガイド』の「トラブルシューティング」－「ハードウェア関連のトラブル」をご覧ください。

警告



- メモリの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

注意



- メモリの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。

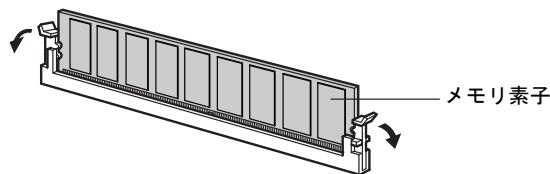


- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。やけどの原因となることがあります。

1 「本体カバーの取り外し方／3.5 インチ HDD ケージの開け方」(→ P.6) をご覧になり、3.5 インチ HDD ケージを開きます。

2 カスタムメイドで CPU をインテル® Xeon® プロセッサを選択した場合、ヒートシンクのファンの電源コネクタを取り外します。

3 スロットの両側のフックを外側に開きます。



重要

- ▶ すでにメモリが取り付けられている場合は、フックを勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがあります。

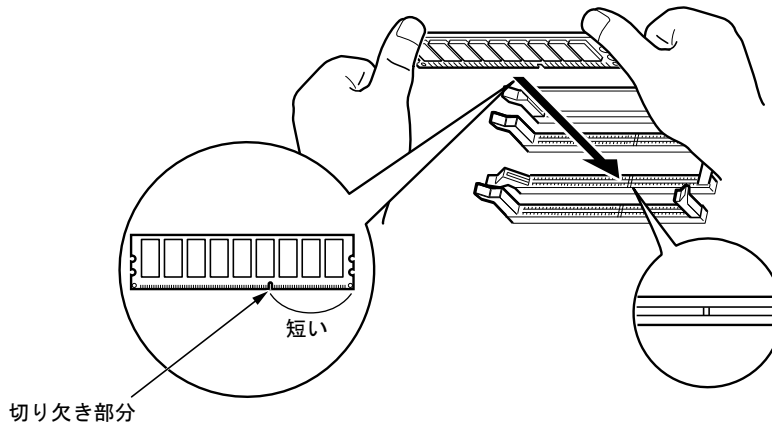
すでに取り付けられているメモリを交換する場合は、手順 4 へ進んでください。
メモリを増設する場合は、手順 5 へ進んでください。

4 すでに取り付けられているメモリを取り外します。

5 メモリをスロットに差し込みます。

メモリとスロットの切り欠き部分（1ヶ所）を合わせて、スロットに垂直にメモリを差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが閉じた状態になります。このとき、フックがメモリをしっかり固定しているか確認してください。



POINT

- ▶ 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。
- ▶ メモリ素子の状態はイラストと異なる場合があります。
- ▶ 空きスロットのフックは、閉じた状態にしてください。

6 手順2で電源コネクタを取り外している場合は、電源コネクタを取り付けます。

7 3.5 インチ HDD ケージを閉じます。

つまみ（緑）を右に回し、しっかり締めてください。

8 ワークステーション本体を縦置きにします。

9 本体カバーを取り付けます。

10 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを 4 秒以上押し続けて本ワークステーションの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。
- ▶ 取り付けが正しいにもかかわらず本ワークステーションが起動しない場合は、メモリが故障している場合があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 本ワークステーションでグラフィックスカードを搭載されていない構成では、メインメモリの一部をビデオメモリやその他の機能で使用しています。そのため、起動時の自己診断（POST）時や、次の手順で画面に表示されるメモリの容量（Windows XP の場合）は、取り付けたメモリの総容量より少なくなります。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 次の操作をします。

● Windows 7 の場合

1. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
「システム」ウィンドウが表示されます。

● Windows XP の場合

1. 「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 次の方法で、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。

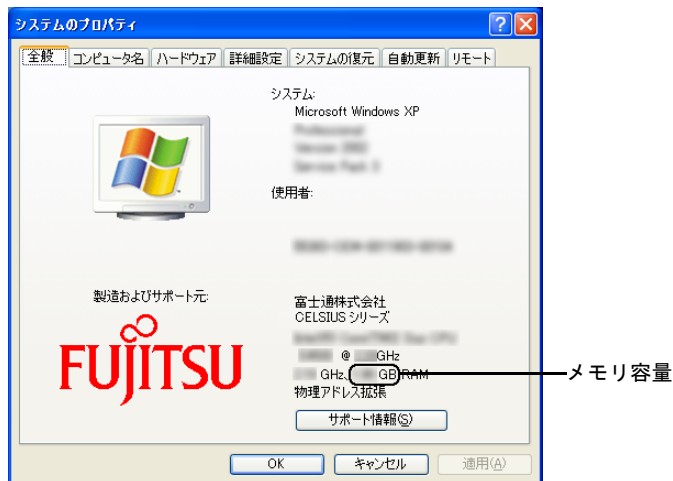
メモリの容量の数値が正しくない場合は、電源を切った後メモリが正しく取り付けられているかどうかを確認してください。

● Windows 7 の場合

「実装メモリ（RAM）」の数値が、増やしたメモリの分だけ増えていることを確認します。

● Windows XP の場合

次の画面の枠で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えていることを確認します。



5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックします。

4 拡張カード

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。
- ▶ 拡張カードの取り付けや取り外しを行うと、OS を読み込むデバイスの優先順位が変わり、ワークステーション本体が起動しないことがあります。この場合は、BIOS セットアップを起動し、「Boot」メニューで起動したいデバイスの順位を最上位に設定してください。
- ▶ 本ワークステーションでは、すべての PCI Express 規格および PCI 規格の拡張カードについて動作保証するものではありません。
- ▶ 増設する PCI Express カードや PCI カードが起動 ROM (BIOS) を搭載している場合、その種類や増設数により、ワークステーション本体が起動できないことがあります。このような場合は、増設する PCI Express カードや PCI カードの BIOS を無効にすることにより、現象を回避できることがあります。増設する PCI Express カードや PCI カードの BIOS を無効にする方法は、各カードのマニュアルをご覧ください。

警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

注意



- 拡張カードの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



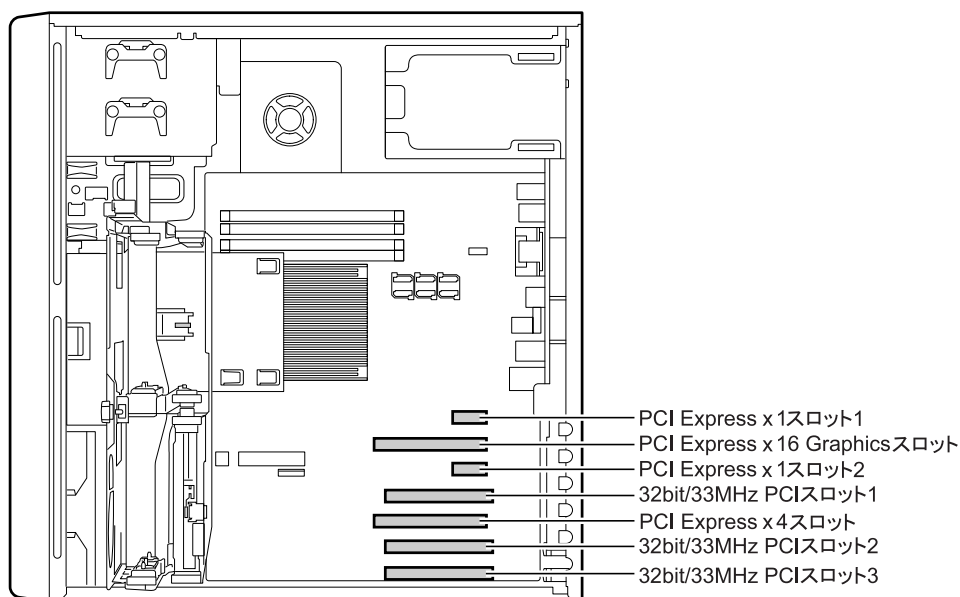
- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カードスロットに取り付けます。



取り付けられる拡張カード

本ワークステーションには、PCI Express 規格と PCI 規格の拡張カードを取り付けられます。
本ワークステーションに取り付けられる拡張カードについて、詳しくは富士通製品情報ページ内にある CELSIUS の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

POINT

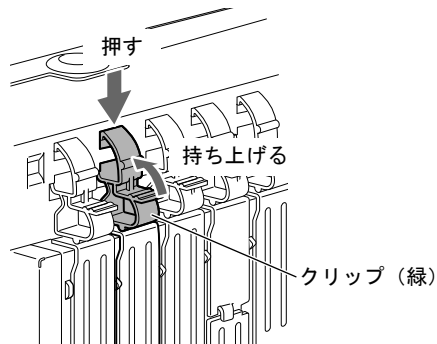
- ▶ カスタムメイドで拡張カードを選択した場合には、あらかじめ拡張カードが取り付けられています。
- ▶ 別売の LAN カードは、32bit/33MHz PCI スロット 3 には搭載できません。32bit/33MHz PCI スロット 1 または 2 をお使いください。

拡張カードを取り付ける

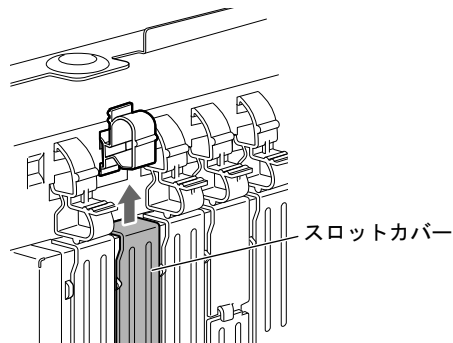
POINT

- ▶ カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合、拡張カードを取り付けるときは、SATA-RAID カードとハードディスクドライブに接続されている SATA ケーブルが外れないように気をつけてください。
SATA ケーブルが外れたまま電源を入れると、正しくケーブルを接続した後にリビルドを実行する必要があります。リビルドについては、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。

- 1 「本体カバーの取り外し方／3.5 インチ HDD ケージの開け方」(→ P.6) をご覧になり、3.5 インチ HDD ケージを開きます。
- 2 スロットカバーを固定しているクリップ（緑）の上のほうを、矢印方向に押しながらクリップを持ち上げます。



- 3 スロットカバーを引き上げます。

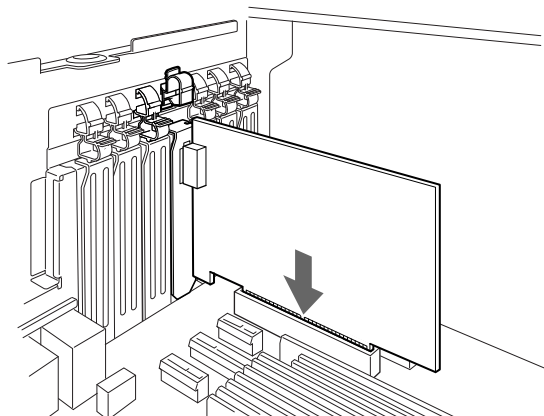


POINT

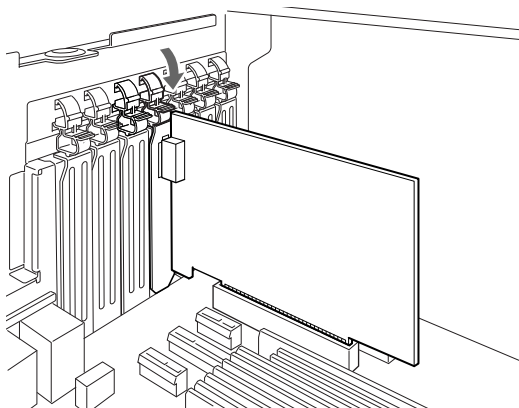
- ▶ スロットカバーが取り外せない場合は、その下段のスロットカバーまたは拡張カードもいったん取り外してください。
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる場合は、ワークステーション本体内部にゴミが入らないように取り付けてください。

4 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込んでください。



5 クリップ（緑）を元に戻し、拡張カードを固定します。



6 3.5 インチ HDD ケージを閉じます。

つまみ（緑）を右に回し、しっかりと締めてください。

7 ワークステーション本体を縦置きにします。

8 本体カバーを取り付けます。

9 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

デバイスドライバーとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャーに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

5 ハードディスク

ワークステーション本体に取り付けられるハードディスク容量を増やすと、より多くのデータを格納できるようになります。

POINT

- ▶ ご購入後、ハードディスクを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください。Windows のセットアップについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ ハードディスクの取り付けや取り外しを行うと、OSを読み込むデバイスの優先順位が変わり、本ワークステーションが起動しないことがあります。この場合は、BIOS セットアップを起動し、「Boot」メニューで起動したいデバイスの順位を最上位に設定してください。

警告



- ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

注意



- ハードディスクの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



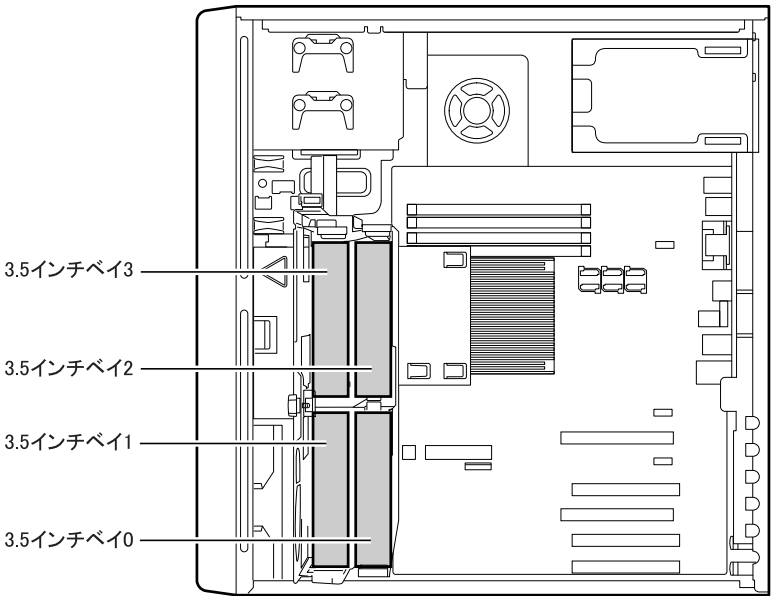
- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

ハードディスクの取り付け場所

ハードディスクはワークステーション本体内部の 3.5 インチベイに取り付けられます。



取り付けられるハードディスク

- 本ワークステーションでは、Serial ATA (SATA) 規格のハードディスクをサポートしています。
- ハードディスクは、次の組み合わせで搭載されています。

	SATA-HDD	SATA-RAID
5 インチストレージベイ 1	搭載不可	搭載不可
5 インチストレージベイ 2	内蔵タイプの周辺機器	内蔵タイプの周辺機器
3.5 インチベイ 0 ^注	SATA-HDD (基本／カスタムメイド)	SATA-HDD (カスタムメイド)
3.5 インチベイ 1 ^注	SATA-HDD (カスタムメイド)	SATA-HDD (カスタムメイド)
3.5 インチベイ 2 ^注	SATA-HDD (カスタムメイド)	搭載不可
3.5 インチベイ 3 ^注	SATA-HDD (カスタムメイド)	搭載不可

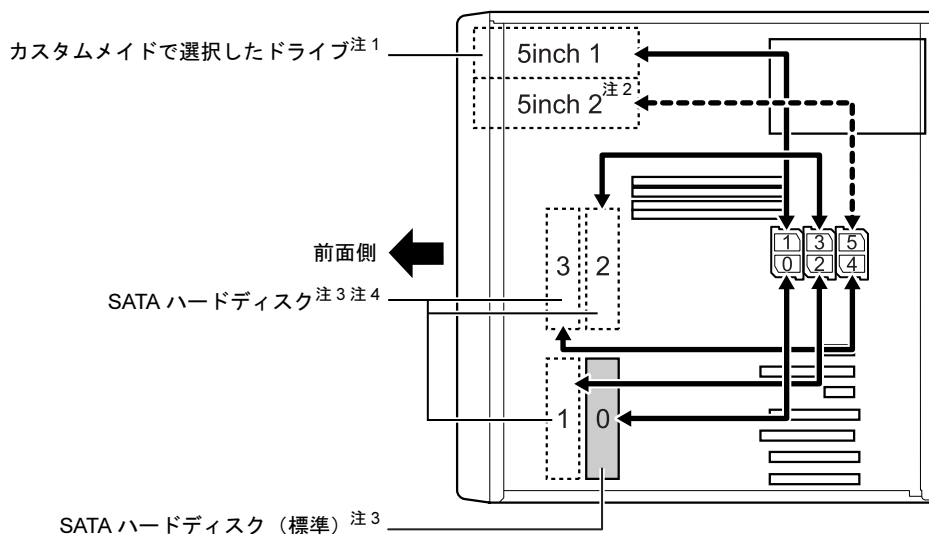
注：カスタムメイドの選択によって、ハードディスクドライブの搭載状態が異なります。

Serial ATA（SATA）規格のデバイス接続

■ SATA-HDD（標準）の場合

本ワークステーションには、SATA 規格のハードディスクを最大で 4 台内蔵できます。カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、SATA コネクタ 1 に取り付けられています。

SATA 規格のハードディスクドライブは、SATA コネクタ 0 に取り付けられています。カスタムメイドの HDD 変更（SATA）で 2 台から 4 台を選択した場合は、SATA コネクタ 2 から 4 の順に取り付けられています。



注 1 : カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、選択したドライブが搭載されています。

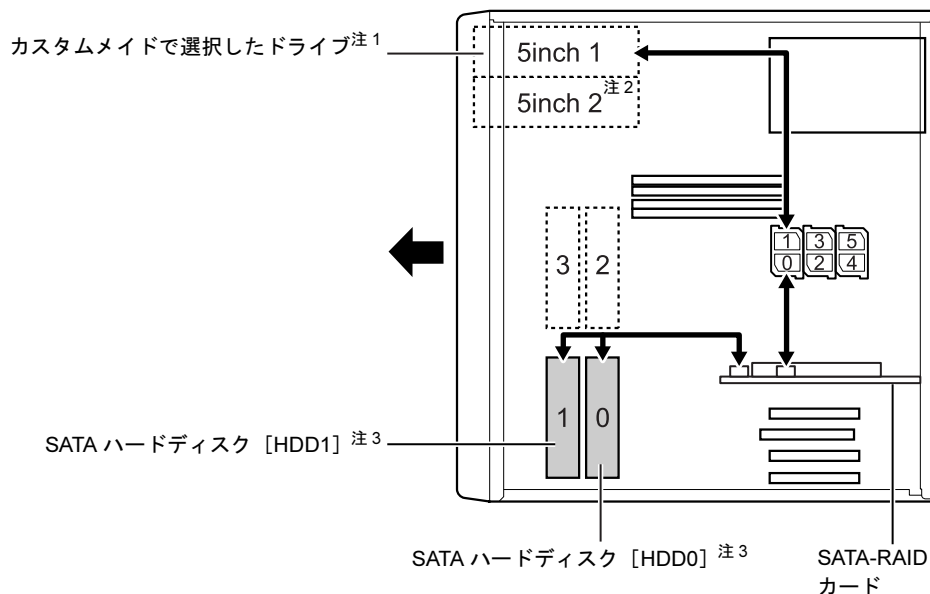
注 2 : 5 インチストレージベイ 2 には、内蔵するタイプの周辺機器が搭載可能です。

注 3 : 3.5 インチベイには、SATA ハードディスクのみ搭載可能です。

注 4 : カスタムメイドで HDD 変更（600GB（300GB × 2）（SATA/10,000rpm））を選択した場合、3.5 インチベイの 0 と 3 に SATA ハードディスクが搭載されます。

■ カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合

本ワークステーションには、SATA 規格のハードディスクドライブ（2 台）が、SATA-RAID カードに接続されています。



注 1 : カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、選択したドライブが搭載されています。

注 2 : 5 インチストレージベイ 2 には、内蔵するタイプの周辺機器が搭載可能です。

注 3 : 同じ仕様のハードディスクが取り付けられています。また、2 台で 1 台のハードディスクとして取り扱われます。

POINT

- ▶ SATA-RAID カードについては、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。

ハードディスクを取り付ける

ここでは、内蔵ハードディスクの搭載方法を説明します。
本ワークステーションでは、SATA 規格の内蔵ハードディスクをサポートしています。

■ 注意事項

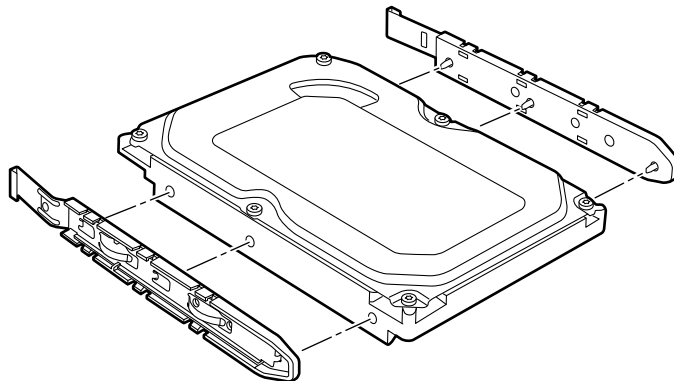
故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きをしています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でご使用をお避けください。衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具には近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでは、ご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露させたり、濡らしたりしないでください。

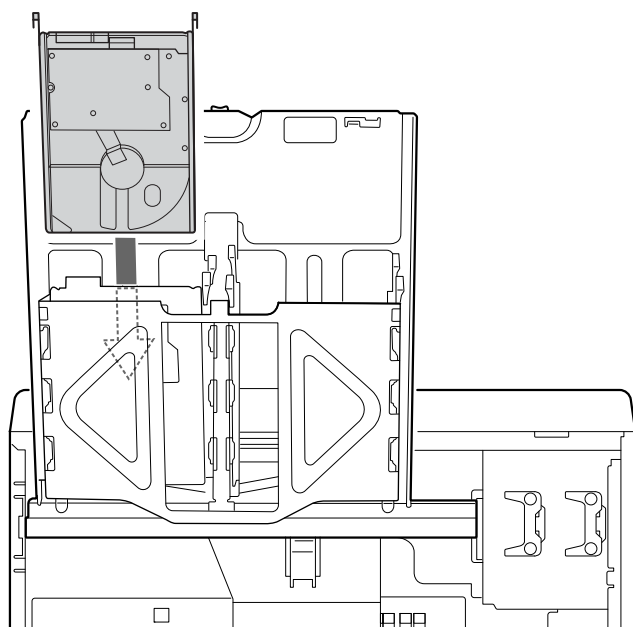
POINT

- ▶ 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップをとっておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または領域単位でのバックアップをお勧めします。

- 1 「本体カバーの取り外し方／3.5 インチ HDD ケージの開け方」(→ P.6) をご覧になり、3.5 インチ HDD ケージを開きます。
- 2 増設する内蔵ハードディスクに、添付の HDD 固定レールを取り付けます。



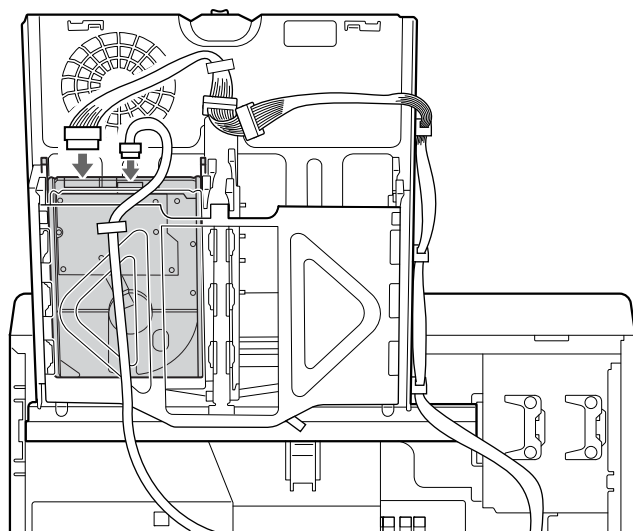
3 内蔵ハードディスクを 3.5 インチベイに取り付けます。



4 ハードディスクに、ケーブルを取り付けます。

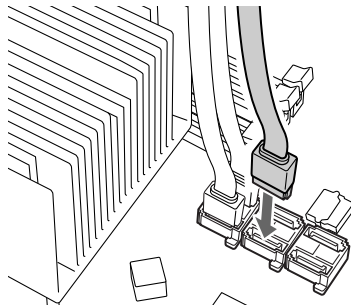
ケーブルはコネクタに垂直にしっかりと接続してください。

ハードディスクに SATA ケーブルと電源ケーブルを取り付けます。



5 コネクタにケーブルを接続します。

ケーブルは、SATA コネクタ 0、2、3、4 の順に垂直にしっかりと接続してください。
次の図は SATA コネクタ 2 に接続した場合です。



6 3.5 インチ HDD ケージを閉じます。

つまみ（緑）を右に回し、しっかりと締めてください。

7 ワークステーション本体を縦置きにします。

8 本体カバーを取り付けます。

9 BIOS セットアップの設定を確認します。

電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れてください。
BIOS セットアップを起動し、「Boot」メニューで起動したいドライブが先頭に表示されていることを確認してください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの起動方法は、「CELSIUS マニュアル」の『製品ガイド』の「BIOS セットアップの操作のしかた」をご覧ください。
- ▶ ハードディスクから SATA ケーブルを取り外す場合は、ケーブルのコネクタ部分を持ってください。
- ▶ 内蔵ハードディスクを取り外す場合は、取り付ける手順をご覧ください。
- ▶ 内蔵ハードディスクを取り付けた場合は、「ディスクの管理」で領域を設定し、フォーマットしてください。
 - Windows 7 の場合
 1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 3. 「システムとセキュリティ」→「管理ツール」の「ハードディスク パーティションの作成とフォーマット」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「ディスクの管理」ウィンドウが表示されます。
 - Windows XP の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」の順にクリックします。
 2. 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
 3. 「記憶域」の下にある「ディスクの管理」をクリックします。
- ▶ ハードディスクを増設すると、はじめから搭載されているハードディスクのドライブ名が変わることがあります。ハードディスクを増設する前に「ディスクの管理」で、はじめから搭載されているハードディスク領域のドライブ文字を割り当ててください。

Memo

第 2 章 お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

1 ワークステーション本体のお手入れ	28
2 周辺機器のお手入れ	35

1 ワークステーション本体のお手入れ

ここでは、ワークステーション本体のお手入れについて説明します。
本ワークステーションを長期間お使いになると、ワークステーション本体に汚れが付着したり、ほこりがたまったりすることがあります。そのままお使いになると、本ワークステーションが故障しやすくなります。ワークステーション本体は、定期的に清掃してください。

警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。



- 清掃のときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
故障・火災の原因となります。

ワークステーション本体

■ お手入れのしかた

- ワークステーション本体の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
 - ・ 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、ワークステーション本体に水が入らないよう十分に注意してください。
 - ・ 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。また、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。

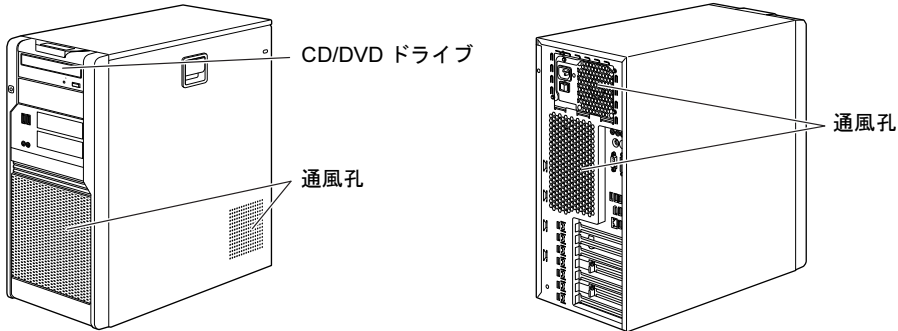
POINT

- ▶ 通風孔のほこりは、掃除機などで吸引してください。
- 清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

■ ほこりがたまりやすい箇所

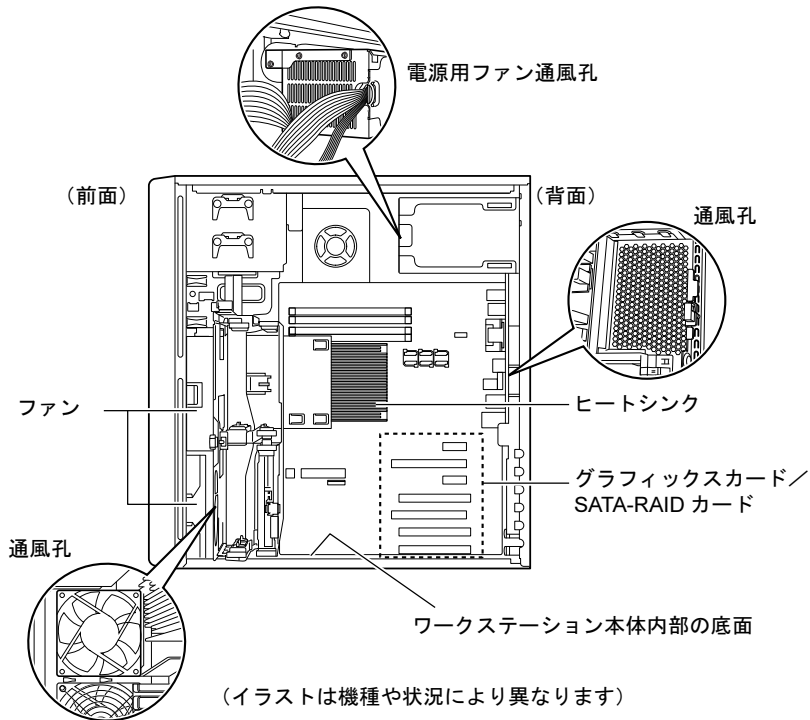
□ ワークステーション本体前面や通風孔

CD/DVD ドライブ（カスタムで選択した場合） および通風孔にほこりがたまらないように気をつけてください。



□ ワークステーション本体内部

通風孔の内側、ヒートシンク、ファン、電源用ファンの吸気口、グラフィックスカード、SATA-RAID カード（カスタムメイドで選択した場合）にほこりがたまらないように気をつけてください。



👉 重要

- ▶ ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、ファンの羽根およびその他のワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。
- ▶ 清掃時には、十分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。

ヒートシンク

ワークステーション本体内部のヒートシンクは、定期的に清掃してください。

■ 用意するもの

- 掃除機
- 綿手袋

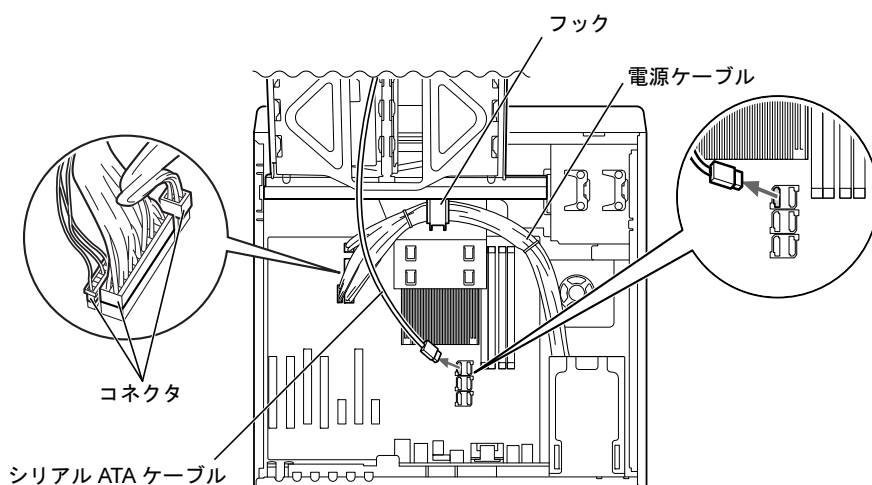
■ お手入れのしかた

重要

- ▶ 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずワークステーション本体や周辺機器の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ▶ ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、ファンの羽根およびその他のワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。
- ▶ ワークステーション本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
ワークステーション本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
- ▶ 清掃時には、十分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。
- ▶ 故障の原因となりますので、洗剤を使用しないでください。
- ▶ 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

- 1 「周辺機器の設置／設定／増設」－「本体カバーの取り外し方／3.5 インチ HDD ケージの開け方」（→ P.6）をご覧ください。3.5 インチ HDD ケージを開きます。

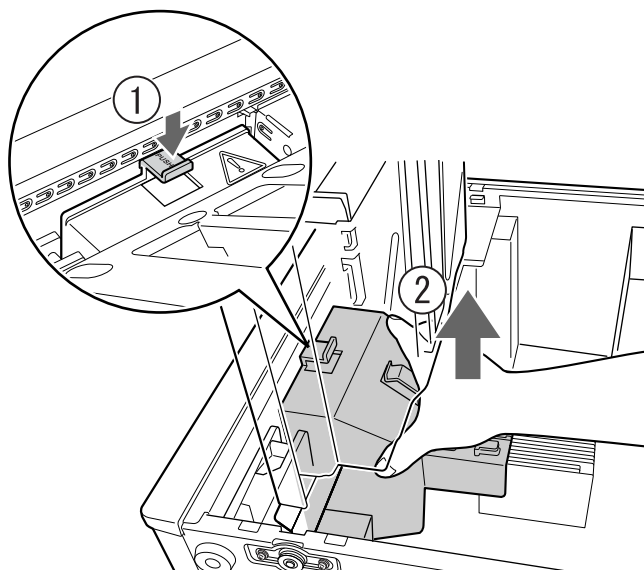
- 2** シリアル ATA ケーブルと電源ケーブルのコネクタを取り外し、フックから電源ケーブルを外します。



POINT

- ▶ シリアル ATA ケーブルの数は、HDD の搭載状況により異なります。

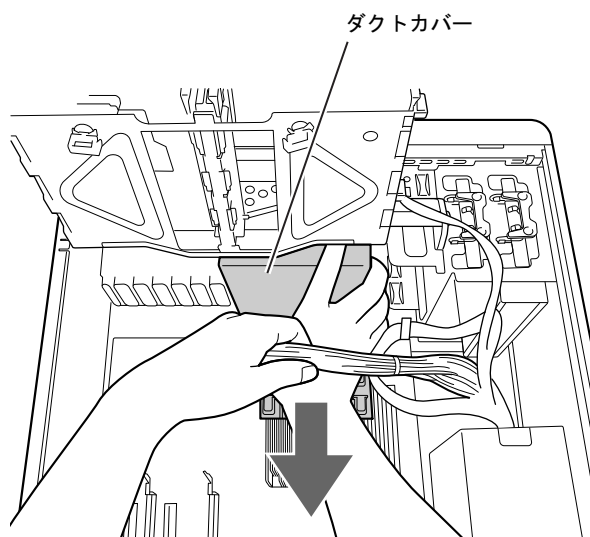
- 3** ダクトカバーの「PUSH」と記載されている箇所を軽く下に押しながら、ヒートシンク側からダクトカバーを持ち、上に持ち上げます。



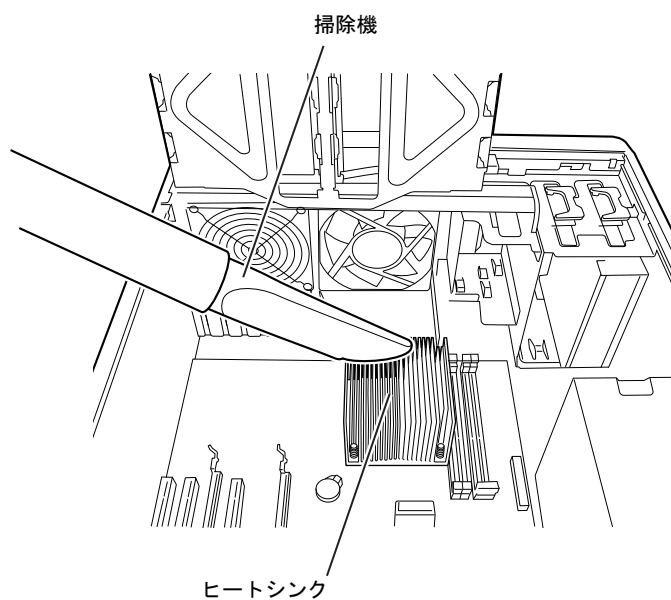
POINT

- ▶ 「PUSH」ボタンは、ワークステーション本体と、3.5 インチ HDD ケージの間から押すことができます。

- 4** ひっかかりがなくなったら、手前にダクトカバーをずらし、ダクトカバーを取り外します。



- 5** 掃除機でヒートシンク上のほこりを直接吸い取ります。



重要

- ▶ ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒や爪楊枝を使用してほこりを取ったりしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。

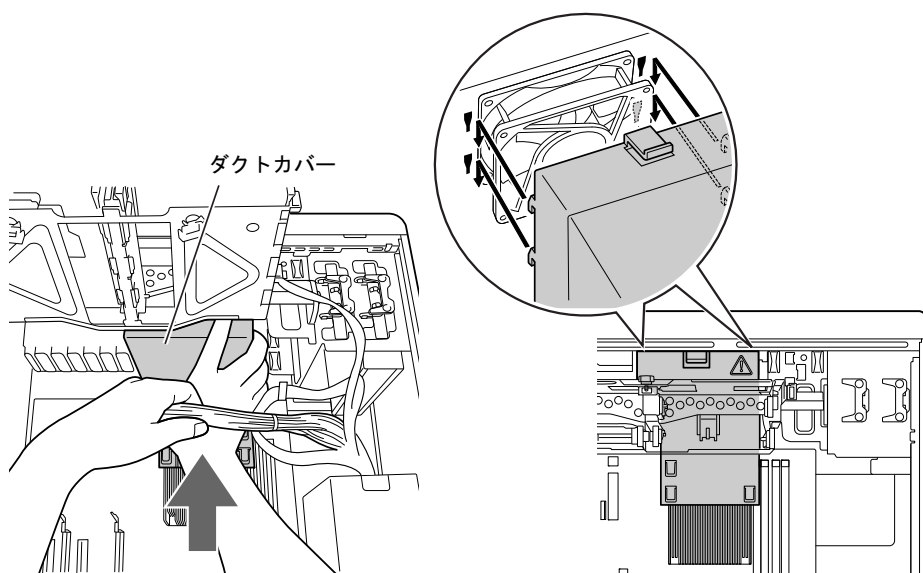
6 電源ユニットやヒートシンク周辺などの、ほこりがたまりやすい箇所のほこりを掃除機で吸い取ります。

ほこりがたまりやすい箇所については、「ほこりがたまりやすい箇所」（→ P.29）をご覧ください。

重要

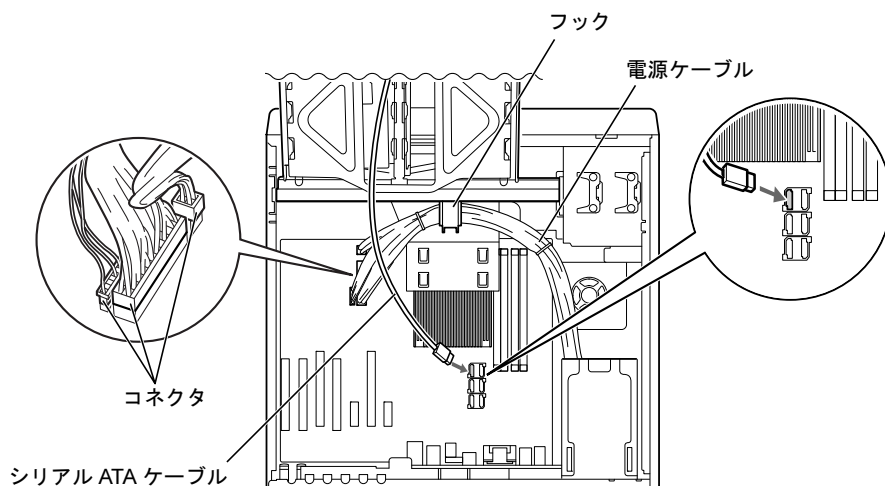
- ▶ 故障の原因となりますので、ヒートシンク周辺の電気部品には触れないようにご注意ください。

7 次のイラストのようにダクトカバーを持ち、ダクトカバーのツメをワークステーション本体の穴にはめ込みます。



8 電源ケーブルをフックにかけ、シリアル ATA ケーブルと電源ケーブルのコネクタを取り付けます。

シリアル ATA ケーブルの取り付け方は、「周辺機器の設置／設定／増設」－「Serial ATA (SATA) 規格のデバイス接続」(→ P.21) をご覧ください。



POINT

▶ シリアル ATA ケーブルの数は、HDD の搭載状況により異なります。

9 3.5 インチ HDD ケージを閉じます。

つまみ（緑）を右に回し、しっかり締めてください。

10 ワークステーション本体を縦置きにします。

11 本体カバーを取り付けます。

2 周辺機器のお手入れ

キーボード

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、キーボード内部に水が入らないよう充分注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のはこりなどを取る場合は、ゴミを吹き飛ばすのではなく、筆のような、先の柔らかいものを使ってゴミを取ってください。ゴミを吹き飛ばすと、キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

マウス

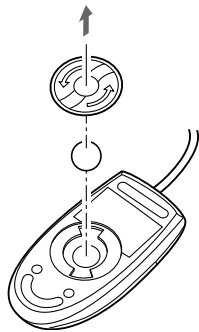
表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、マウス内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

PS/2 マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

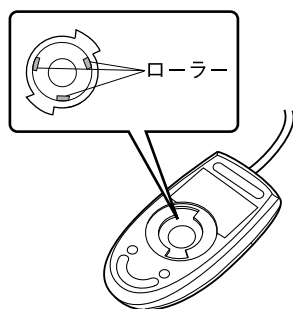


2 ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。

3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ボタンを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

CELSIUS W380

取扱説明書（追補版）
B6FJ-3691-01-00

発行日 2010 年 1 月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

